



2021年3月期 決算説明会

2021年5月17日

住友ベークライト株式会社
代表取締役社長 藤原 一彦

2021年3月期（2020年度） 決算の概要

2021年3月期 通期業績 (前年同期比)

(金額単位：億円)

【IFRS】	2020年3月期 実績①	2021年3月期 実績②	前年同期比較	
			金額 (②-①)	増減率
売上収益	2,066	2,090	24	1.2%
事業利益	143	166	23	16.0%
営業利益	103	199	96	93.6%
当期利益	90	132	42	46.9%
R O E	5.0%	7.0%	—	—

※「事業利益」は「売上収益」から「売上原価」、「販管費及び一般管理費」を控除したベース
「当期利益」は親会社所有者に帰属する当期利益

為替レート	2020年3月期	2021年3月期
USD (\$/¥)	109.10	106.17
EUR (€/¥)	121.14	123.73

補足) 川澄化学工業連結関連

売上収益・事業利益

2021年3月期は3Qから連結した同社の売上収益
103億円、事業利益6億円を含む

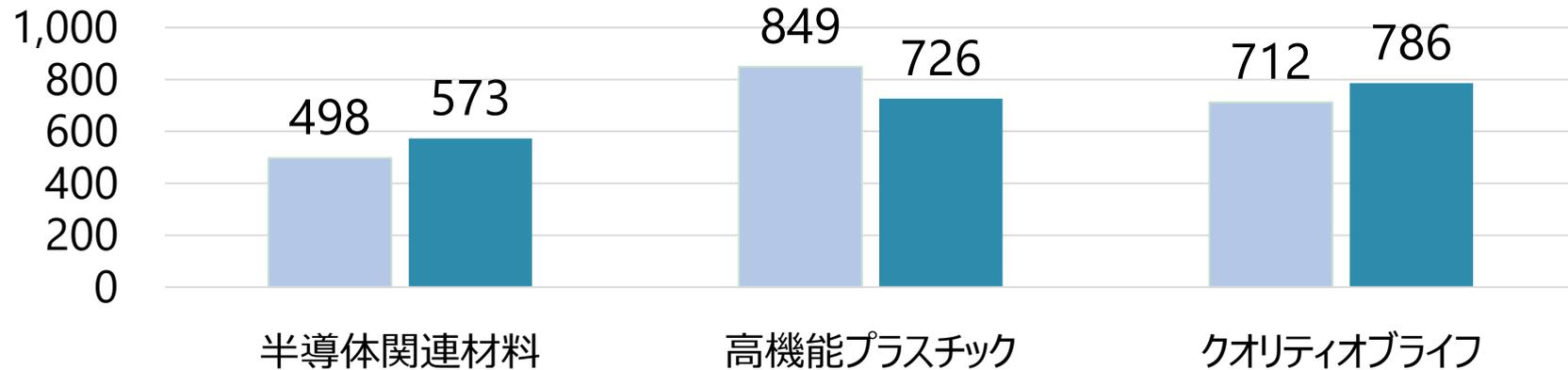
のれん

・負ののれん発生益 (その他収益) 81
・段階取得差損 (金融費用) ▲46

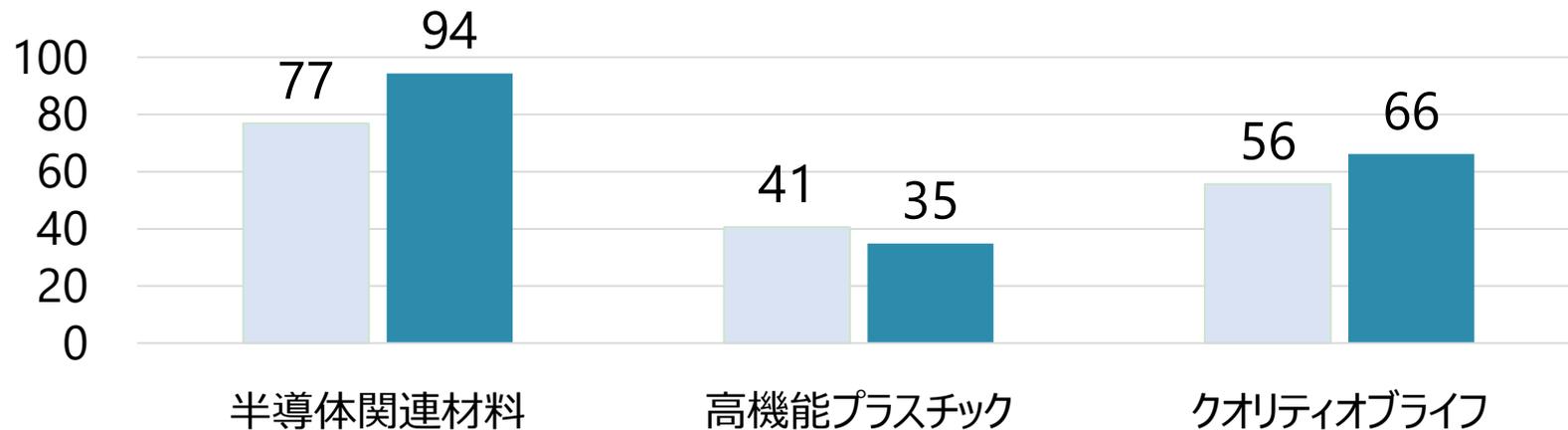
事業セグメント別業績比較 (前年同期比)

(金額単位：億円)

売上収益



事業利益

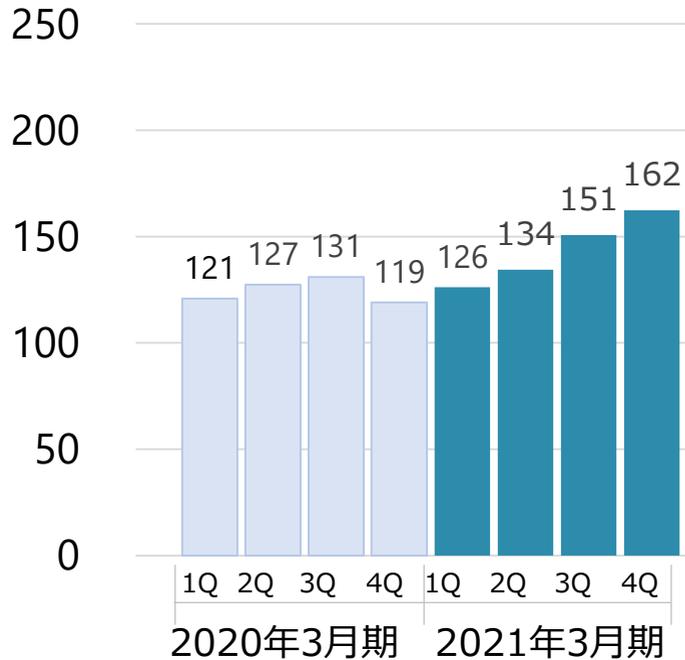


■ 2020年3月期 ■ 2021年3月期

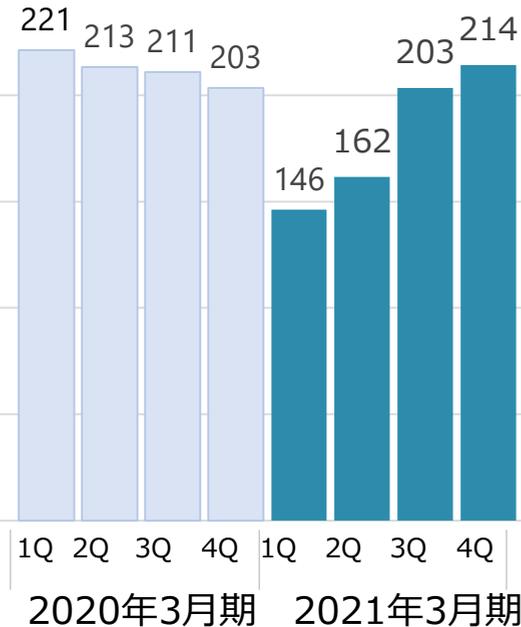
事業セグメント別 四半期販売推移

(金額単位：億円)

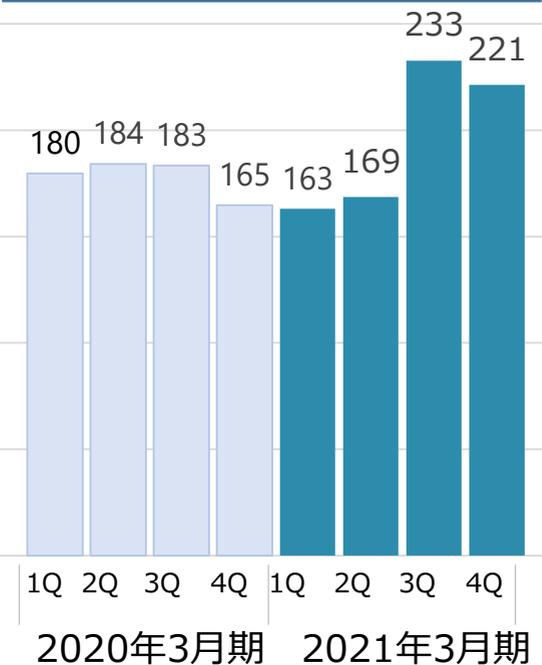
半導体関連材料



高性能プラスチック



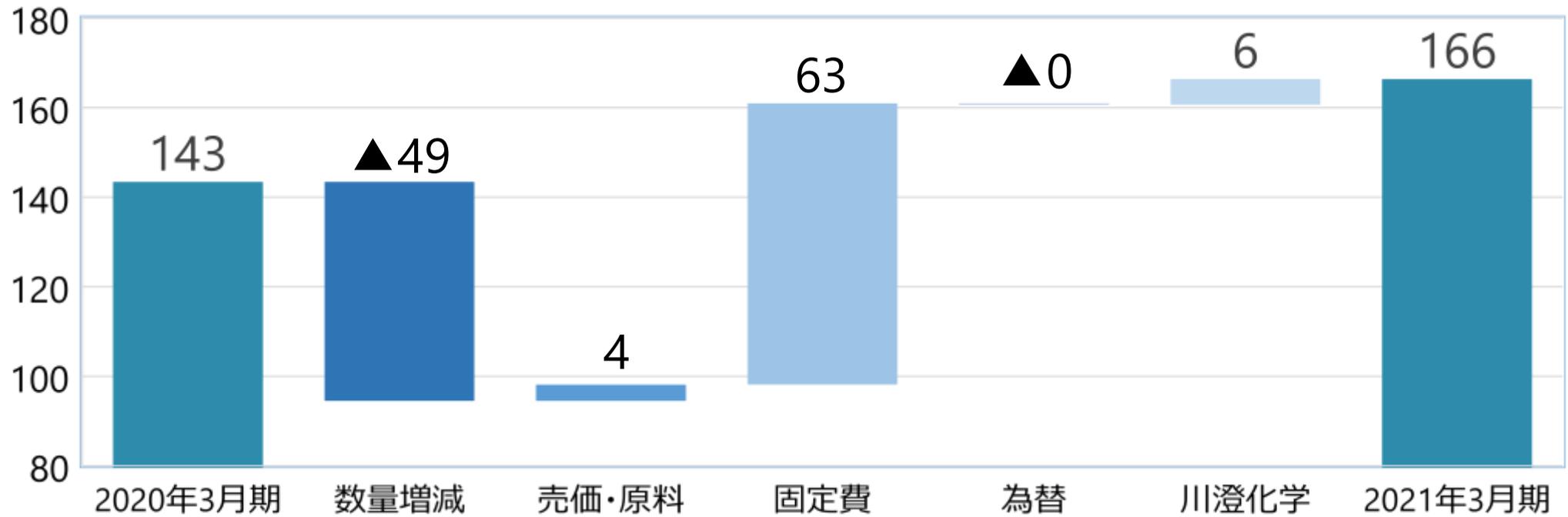
クオリティ オブ ライフ



- 半導体関連材料 封止材はP Cやサーバー等の情報通信向けは巣ごもり需要もあり好調に推移、加えて車載用も3 Q以降回復し、全体として高水準の販売状況であった。
- 高性能プラスチック 自動車向けが前半大きく下落したが、下期に入り急回復。航空機向けは半減。
- クオリティオブライフ 3Qから川澄化学を新規連結。フィルム・シートや産業機能性材料の一部は新型コロナウイルス関連の需要増もあったが、ヘルスケアは受診手控えで減少。

事業利益増減要因 (前年同期比)

(金額単位：億円)



セグメント別	数量増減	売価・原料	固定費	為替	川澄化学	合計
半導体	+ 2 5	▲ 4	▲ 3	▲ 1		+ 1 8
高機能	▲ 6 0	+ 4	+ 5 0	+ 1		▲ 6
Q O L	▲ 1 4	+ 3	+ 1 5	▲ 0	+ 6	+ 1 0

2022年3月期通期 業績予想

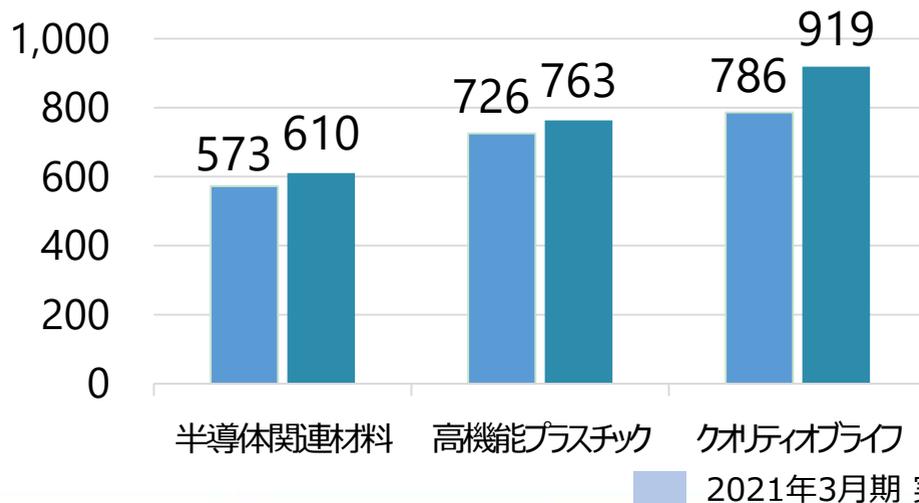
2022年3月期 通期 連結業績予想 (前年同期比)

[金額単位：億円]

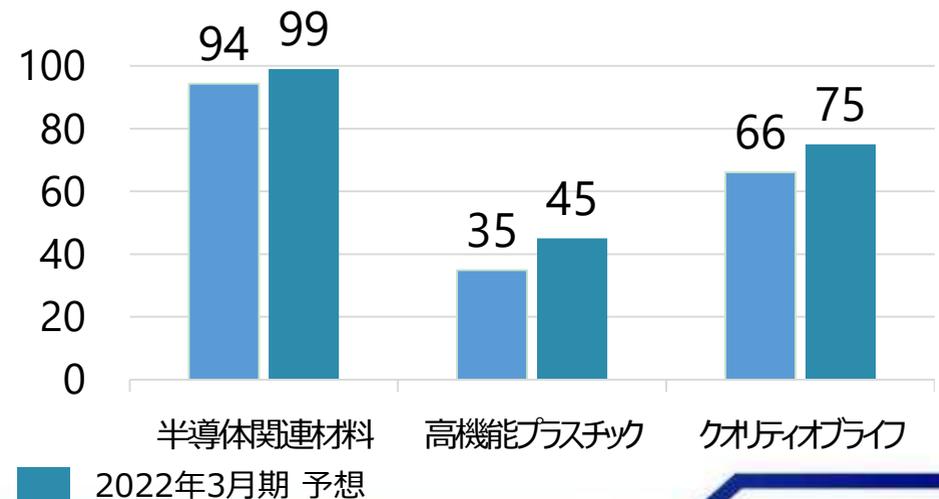
【IFRS】	2021年3月期 実績①	2022年3月期 予想②	前年同期比較	
			金額 (②-①)	増減率
売上収益	2,090	2,300	210	10.0%
事業利益	166	190	24	14.2%
当期利益	132	145	13	9.9%

※「事業利益」は「売上収益」から「売上原価」、「販管費及び一般管理費」を控除したベース。「当期利益」は親会社所有者に帰属する当期利益
 ※2021年3月期の川澄化学の売上は6カ月分

セグメント別売上収益

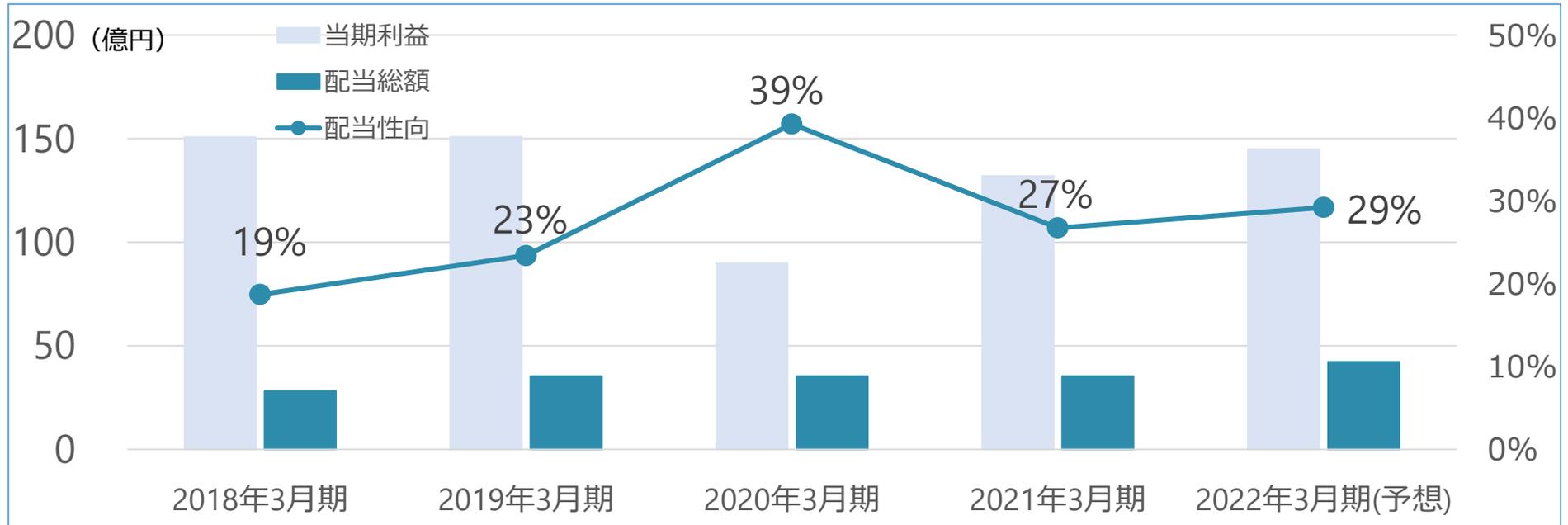


セグメント別事業利益



配当

■ 配当予想 (2022年3月期) : 90円/株 (中間45円・期末45円)



【配当金(円)/株】

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期(予想)
中間配当	6.00	37.50	45.00	30.00	45.00
期末配当	6.00	37.50	30.00	45.00	45.00
年間配当	12.00	75.00	75.00	75.00	90.00

※2018年10月に株式併合(5株 ⇒ 1株)を実施したが、2019年3月期は併合後ベースで表記。

中期経営計画の概要 (2021-2023年度)

ビジョン、中期基本方針および基本戦略

ビジョン

プラスチックの可能性を広げ、
お客様の価値創造を通じて、
「未来に夢を提供する会社」を目指す

中期基本方針

SDGsに則し、機能性化学分野で**「ニッチ&トップシェア」**を
実現、事業規模の拡大を図る。

基本戦略

- 競争優位性のある新製品の開発、早期戦力化
- 既存製品の収益力強化、新規顧客・用途・地域の拡大
- 成長領域における積極的な戦略投資(M&A、D X等)

重点課題

新型コロナウイルス 国際情勢の変化

- ✓ 不確実性の一層の高まり
- ✓ 環境問題への意識の高まり
- ✓ デジタルシフトの加速
- ✓ 生活様式・価値観の変化
- ✓ サプライチェーンの変化

ESGに配慮した経営基盤を強化し、 サステナブル経営を推進

- ✓ **SDGs重点領域を核に事業推進**
- ✓ **DXの推進**
- ✓ **BCPの強化**
- ✓ **組織カルチャーの変革**
- ✓ **「人間力」の向上**



社会課題の変化を成長機会ととらえ、経営を推進

SDGs取り組みの推進

■ SDGs重点領域の見直し

- ✓ 国際的なカーボンニュートラルへの動き
- ✓ グリーン成長政策

「13 気候変動に具体的な対策を」を追加

TCFDに賛同を表明(2021年2月)

※気候関連財務情報開示タスクフォース



■ SDGs貢献製品売上比率



2020年度 ▶ 2023年度 ▶ 2030年度
37% ▶ 50%以上 ▶ 70%以上

■ 2050年環境ビジョン (CO₂削減)

① CO₂ 排出量(Scope1,2)を、
2050年“ゼロ”に向けて挑戦します。

- * 省エネ活動・MFCA活動・プロセス効率改革により、CO₂ 排出量を削減
- * 各国の電力事情の把握を行いつつ、再生可能エネルギーの割合を増やす

② サプライチェーンを含めたCO₂削減に
貢献します。

- * ライフサイクルのCO₂削減を考慮した製品開発
- * サプライチェーンとの協力

変化する社会の課題解決に貢献する価値を創造

DXの推進

研究

MI (マテリアルズ・インフォマティクス)
データ駆動型開発に向け
データ分析・MI導入

ものづくり

生産技術デジタル化
IoT・AI活用し、工場の
生産効率20%向上

業務全般

ITで業務プロセス見直し
・RPA導入推進
・効率化図り、働き方改革

営業・マーケティング・ビジネスモデルへの展開

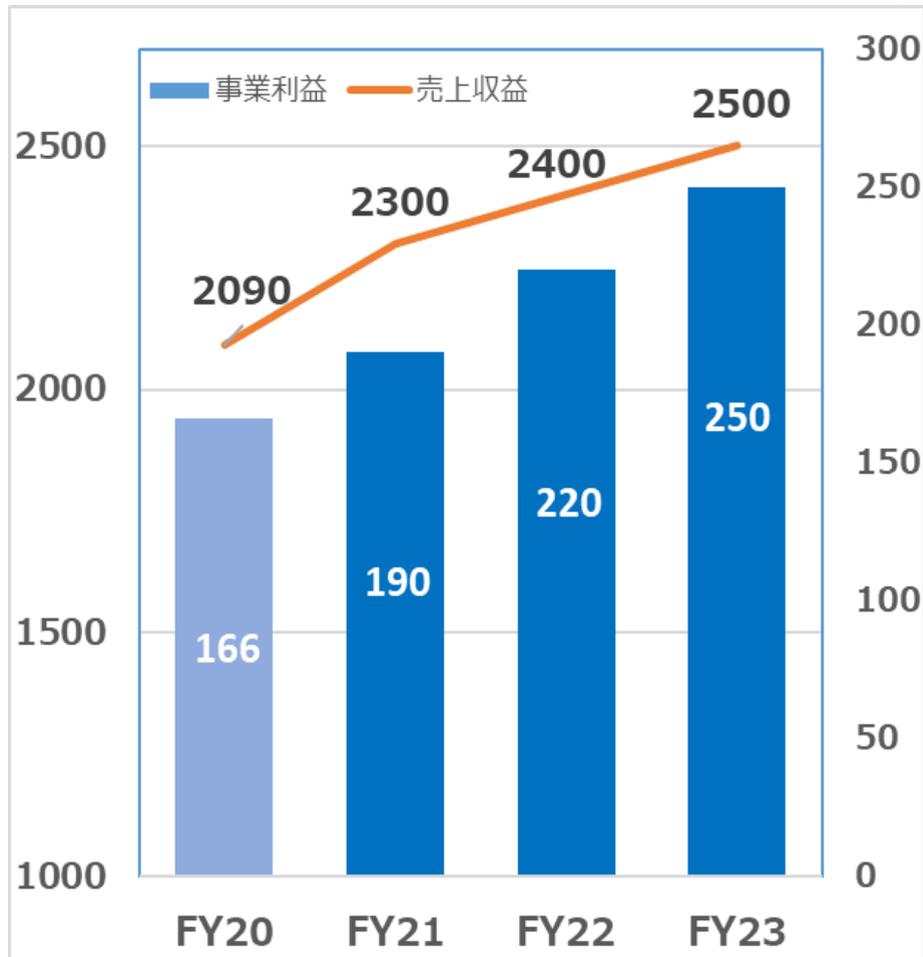
DX人材育成、風土の醸成

DXを意識した経営を推進し、
競争力ある製品・サービスを創出

中期経営計画概要

最終年度(2023年度)の数字目標

(単位：億円)



売上収益 2,500 億円

事業利益 250 億円

事業利益率 10%

ROE 10%

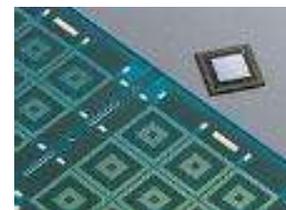
セグメント別重点施策

成長領域にリソース投入し、グローバル生産増強

■ 高集積デバイス領域の事業拡大

進化する先端パッケージ向け材料の強化

- ・ M U F (モールドアンダーフィル)材
- ・ 圧縮成形用顆粒材



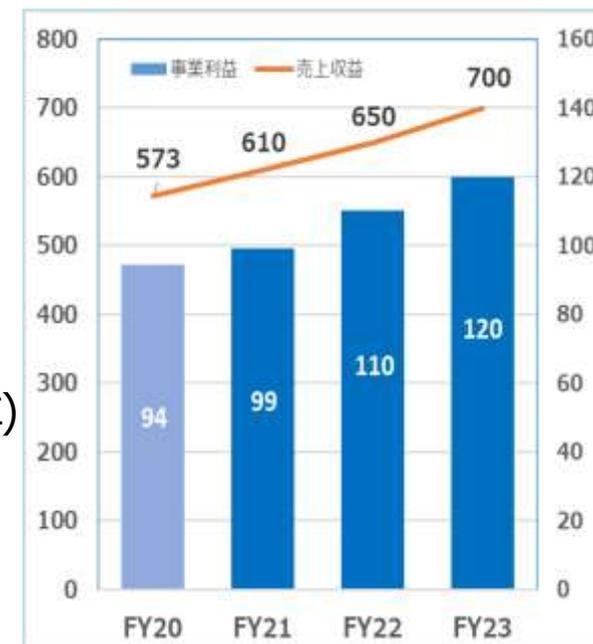
■ 5G・DX時代に対応する高機能材料展開

- ・ 次世代アンテナ用⇒誘電特性制御、三次元回路
- ・ ミニ/マイクロLED⇒再配線用感光性材料(CRC)

■ 需要増大にタイムリーに対応した投資

- ・ モビリティ材料：欧州生産開始、新ライン設置(21~22年)
北米生産検討(21年後半)
- ・ 中国市場：販売増に対応した蘇州工場増産投資
- ・ M U F 材：日・中・台の体制確立とさらなる能力拡大

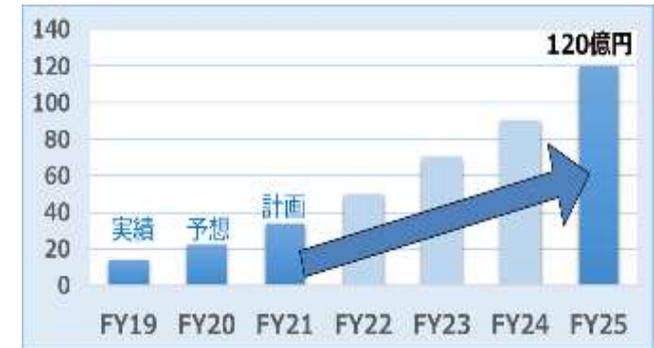
(単位：億円)



電動化進展へ新たなソリューション提案

■モビリティ分野戦略 3 製品の採用加速

- ・モーター磁石固定用：日米欧中韓他WW展開
- ・E C U一括封止材：欧州ティア 1 向け注力
- ・パワーモジュール封止材:SiC、GaNデバイス向け



■次世代電動アクスル市場開発推進プロジェクトチーム

- ・独自樹脂で電動アクスルを作製・評価、顧客価値を実証・具現化支援

パワーモジュール

各種高放熱材料でサーマルマネジメント

- 高放熱シート
- 高熱伝導シタリングペースト
- 高信頼性封止材

インバータ

ハウジング

樹脂化による軽量化・低コスト・静音化

- 樹脂製モーターハウジング
- 樹脂製インバータケース
- 電磁波シールド付与

ステーター

樹脂封止による放熱性・絶縁信頼性向上

- ステーター封止材料
- コイル直接冷却構造

ステーターのコイルを樹脂で封止

ローター

- 磁石固定用、エンドキャップレス

モーター

製品ポートフォリオを見直し、成長市場へ注力

■ 既存製品のシェア拡大

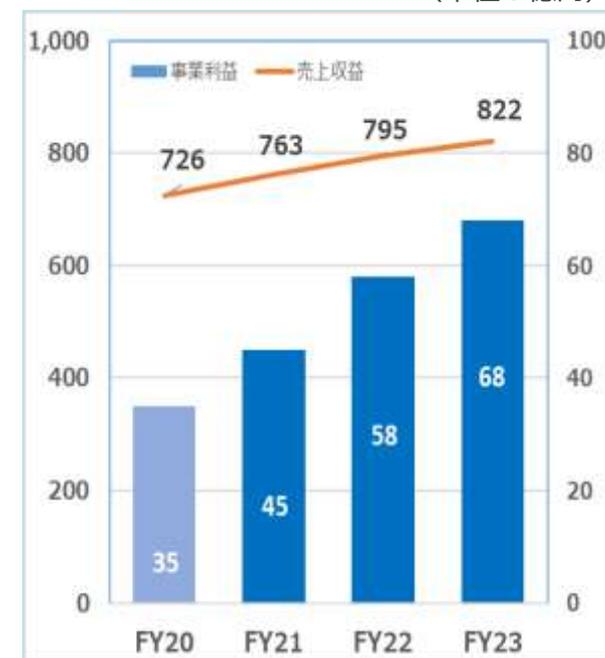
- ・グローバルでの連携強化 (横串チーム編成) : ブレーキピストン・摩擦材・タイヤ用途
- ・地域戦略の強化 (中国) : ハイエンドコンミ材、トランス用ボビン材、Eバイク用ピストン材
(欧州) : EV化対応大型成形品、断熱材、スマートメーター

■ 市場の変化を先取りした成長戦略

- ・EV化への対応
コイルエンド材、IGBT用注型材、高寸法精度材「SiON」
サーマル・マネジメント(放熱材)
- ・半導体・ディスプレイ関連レジン (樹脂)
カラーフィルター用ベース材、レジスト用レジン
- ・環境対応製品 : 植物由来リグニン変性フェノール樹脂



(単位：億円)



■ 停滞市場 : 構造改革で身の丈化

- ・航空機市場 → 固定費削減継続
- ・北米市場 → レジン事業、シール用材料立て直し

新規事業領域を拡大し、さらなる事業規模拡大へ

■ 機能性フィルムで事業領域を拡大 (フィルム)

- ・スキンパック市場の創造
おいしさの見える化 → ブランド化戦略推進
- ・産業用フィルム中国市場拡大
南通工場の立地生かし、中国半導体・電子部品向け拡販



スキンパック包装で
生肉の消費期限が
大幅延長

(単位：億円)

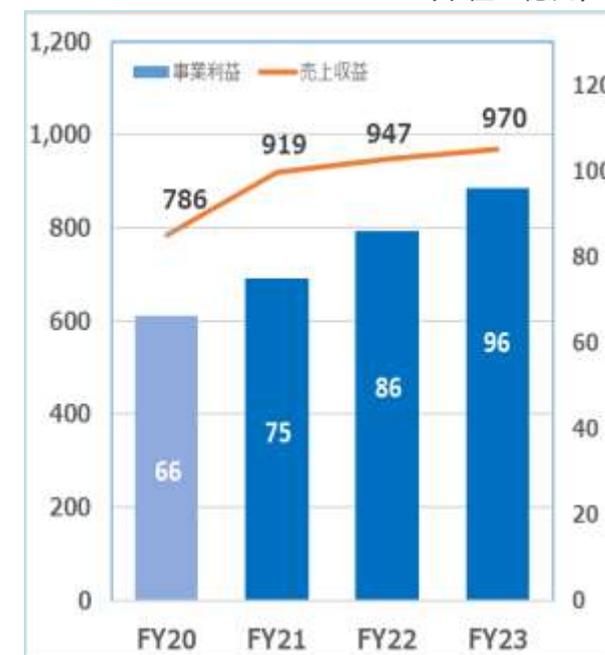
■ 環境対応フィルムの開発 (フィルム)

- ・モノマテリアルフィルムの市場投入
- ・バイオマスPTP医薬品包装シート拡販



■ ビジネスモデルの変革(産機・防水)

- ・光学用途グローバル展開
アイウェア：欧州向けサングラス用偏光板
モビリティ：HUD (ヘッドアップディスプレイ)、ADAS関連拡販
- ・屋根材「スミルーフ」拡販
屋上シート防水から屋根材ビジネスへの展開



診断～治療を担う総合ヘルスケアメーカーを目指し、事業再編

■ 医療機器業界でのプレゼンス向上

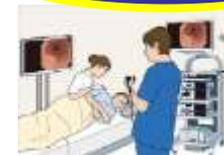
住友ベークライトと川澄化学の医療機器事業統合

⇒ **S B カワスミ発足** (2021年10月)

低侵襲治療分野への新製品投入

⇒ 川崎市殿町に新研究所スタート (2021年10月)

注力分野



内視鏡治療

血管内治療



新研究所外観イメージ



ステントグラフト

双方の拠点・人的リソースを活用しシナジー創出

■ バイオ事業の拡大

- ・ S-バイオ事業部がヘルスケア営業本部から独立 (2021年4月)
- ・ S Bバイオサイエンス 100%子会社化 (2021年3月)
- ・ バイオ・サイエンス研究所設立 (2021年4月)



研究開発の取組み

社会・顧客ニーズに応える研究開発活動

世の中の真のニーズに貢献する新商品を創出、そのための技術を醸成

社会・顧客ニーズ

コア技術群

提案ソリューション

